

3-3 魅力ある学校づくり

確かな学力と豊かな心、健やかな体を育み、子ども一人ひとりがいきいきと輝く学校づくりを進めます。

■施策の展開内容

子どもたちの個性や人権を尊重しながら、個々の能力を伸ばすとともに、確かな学力の定着と体力の向上に取り組み、魅力ある学校づくりを進めます。

■現状と課題

- 変化の激しい社会において、自ら考え行動する力や、多様な価値観を理解し合う力、新たな課題に柔軟に対応する力の重要性が増しています。時代の変化にもゆるがない確かな学力や体力、協調性を身につけられる教育を充実させていく必要があります。
- 国のGIGAスクール構想により、児童生徒1人1台の端末と通信ネットワークが整備されました。ICTの活用により、子どもたち一人ひとりの資質・能力を確実に育成していく必要があります。
- 小学校から中学校への進学においては、学習面や生活面での円滑な接続が重要とされています。子どもたちが豊かな学びを得られるよう、切れ目のない一貫した教育が求められています。
- いじめの問題は、児童生徒の生命や身体に係る重大な事案につながるものが懸念され、近年、SNSでのいじめなど新たな問題も発生しています。引き続き、いじめの未然防止や早期発見・早期対応を図る必要があります。

■主な取組

学校教育環境の充実

- 心身ともに健康な児童生徒の育成を育み、確かな学力の育成を支援する授業の推進や個に応じたきめ細かな指導を実施します。
- 郷土愛を育み、未来を拓く力と輝く心の育成をめざす、義務教育9年間を見通した小中一貫教育の推進を図ります。
- 児童生徒の保健衛生の向上のため、施策に対する思想の普及啓発・調査研究を行います。また、児童・生徒の保健保持増進の実践力を育成するため、小中学校における食育・歯科保健活動の充実を図ります。
- 小中学校施設の点検を実施し適切に管理するとともに、老朽化が進む学校施設の改修や改築を計画的に行うことで、児童生徒の安全性の確保や教育環境の充実を図っていきます。
- 教育に関する予算の編成や執行、条例提案等の重要な権限を有している市長と教育

委員会が十分な意思疎通を図るため、会議を開催し、地域の教育の課題やあるべき姿を共有しながら、より一層民意を反映した教育行政を推進します。

子どもがいきいきと輝く学校づくり

- 子どもたちが安心して生活し、健やかに成長することができる環境づくりを目指し、保護者、地域社会及び関係機関などとの連携を強化します。
- 子どもたちが安心して健やかに成長できるよう、保護者、地域、大学や高校と連携し、自然や歴史、文化、人材などの地域資源を活用して、地域全体で学校教育を支援します。
- 「目指す子ども像」を地域と共有し、「地域とともにある学校」を構築します。
- 就学前から小中学校への一貫した学びを確保し、豊かな人間性や社会性を育むため、幼稚園、保育園、認定こども園、小中学校の連携教育を推進します。
- 教職員の資質の向上を図るため、教育課題に応じた研修会や授業研究会、指導の工夫や改善につながる教育情報の提供を行います。
- 教育研究所の心理相談員と市内全小中学校に配置する心の教室相談員兼在宅訪問指導員が学校と連携しながら保護者・児童生徒の相談に適切に応じ、悩みの解消を図り、児童生徒が楽しい学校生活を送れるようにします。
- 教育支援センター（適応指導教室）で児童生徒の支援や担任との連絡会を実施し、学校に行かなくても様々な学びや経験ができる環境づくりを図ります。
- 教職員や少年指導員の研修会を通して、近年増加しているいじめや生徒指導上の問題についての見識を深め、適切な対応ができるよう支援するとともに、いじめの未然防止や早期発見・早期対応に向けた取組、子どもが気軽に相談できる仕組みづくりを進めます。

確かな学力の定着と体力の向上

- 子ども一人ひとりの個性や可能性を伸ばすため、資質に応じたきめ細かな指導を実施します。
- 子どもたちが未知の状況に対応する力や他者と協働して課題を解決する力を育めるよう、子ども達の自主性・自発性を重視した教育を推進します。
- 「学習の基盤となる資質・能力」である『情報活用能力』を育成するため、情報教育のカリキュラム作成、教職員の指導力向上、ICT環境の整備に取り組みます。
- 児童生徒の健やかな成長のために給食が生きた教材となるよう、食育に取り組むとともに、食育のコーディネーターとして各校の学校栄養職員が中心となり、我孫子市の子どもたちに地元の農産物を使った給食を実施し、生産者への感謝の気持ちと郷土愛を育みます。

■ 施策指標

指標名	現況値	目標値 (R9)	KPI
各校が指導主事を要請して校内研修会を実施した回数の総数	207 回	220 回	
第2回 Q-U 検査において学校生活満足群に属している児童生徒の割合	58%	60%	
ALT (外国語指導助手) の授業に満足している児童生徒の割合	91%	95%	
児童生徒がコンピュータなどの ICT 機器を使用した授業を 1 年間で実施した日数 ※全国学習状況調査学校質問紙の回答による	25 日	175 日	
Abi-ふるさとカリキュラムを実施した学校の割合 (%)	100%	100%	
我孫子市キャリアパスポートを活用した学級の割合	—	100%	

令和 2 年度の数値確定後に再検討

3-4 心豊かにする体験・活動の推進

子どもたちが将来に夢や希望を持ち、心豊かに成長できる環境づくりを進めます。

■施策の展開内容

子どもたちが心豊かに成長できるよう、家庭・学校・地域・行政が連携しながら、さまざまな体験や活動に参加できる環境づくりを進めます。

■現状と課題

- 体験活動は、豊かな人間性、自ら学び、自ら考える力などの生きる力の基盤、子どもの成長の糧としての役割が期待されています。子どもたちが各種体験、活動を通じて、社会や地域に参加し、人や物事に触れ合い、経験を重ねることによって、自主性、社会性、創造性などのさまざまな能力を伸ばし、生きる力を身に付けられるよう、学習の場や機会を提供する必要があります。

■主な取り組み

子どもの居場所づくり

- 子どもたちが心豊かに成長できるよう、家庭・学校・地域・行政が連携しながら、さまざまな体験や活動に参加できる環境づくりを進め、あびこ子どもまつり・げんきフェスタ・手賀の丘フレンドシップツアー等、地域に根差したイベントや体験活動の場として取り組んでいきます。
- 放課後の子どもたちが、安全・安心に遊ぶことができる子どもの居場所を提供するとともに、地域の方々と連携して様々な体験や活動の場を通して交流を図っていきます。
- 読書の楽しみを広げるとともに学習活動における図書館利用の促進をはかるとともに、小中学校と連携、協力し、学校図書館の充実と調べ学習のバックアップ体制を整えます。
- 子どもたちの豊かな感性を育むため、創作活動に親しみを持ってもらう「めるへん文庫」事業や、舞台芸術を鑑賞する機会の提供を推進します。

■施策指標

指標名	現況値	目標値(R9)	KPI
あびっ子クラブ在籍児童登録数	63.9	60	★
あびこ子どもまつり有料来場者数	708	600	
げんきフェスタ有料来場者数	489	400	
手賀丘フレンドシップツアー参加者数	58	64	

令和2年度の数値確定後に再検討

4-5 交流・関係人口の拡大

手賀沼をはじめとする地域資源を活用し、多くの人々に親しまれる環境づくりを進めます。

■施策の展開内容

手賀沼をはじめとする地域の資源を最大限活用し、民間事業者とも連携して交流・関係人口を拡大することにより地域の活性化を図ります。

■現状と課題

- 市内には、最大の観光資源である手賀沼をはじめ、古利根沼、利根川などの水辺に代表される豊かな自然や、市内に点在する歴史的・文化的遺産などの観光資源があります。既存の観光資源に加え、新たな観光資源の掘り起こしを行い、それらを積極的に活用し、交流・関係人口を拡大していく必要があります。

■主な取り組み

観光資源の活用による地域の活性化

- 手賀沼を核とした我孫子ならではの様々な地域資源を活かして、市内外から多くの人々が訪れ我孫子に親しんでくれるよう、我孫子らしさを活かしたイベント開催や誘客に寄与する環境づくりに努めます。
- 「人と鳥の共存をめざして」をテーマに、ジャパンバードフェスティバルを開催し、環境保護を考える機会を提供するとともに、自然環境の大切さをアピールしていきます。
- 手賀沼の水環境保全啓発活動を主目的に、その役割を補完・向上する機能を持たせ、市内外の交流人口の拡大や地域活性化にもつなげるとともに、Enjoy手賀沼など、手賀沼の魅力を高めるさまざまなイベントを開催します。
- 交流人口拡大のため、豊かな自然環境を十分に活かし、それらと調和するような景観作物の栽培や観光農園の展開、環境学習の場の提供等、手賀沼に親しめる場を提供します。
- 交流人口の拡大や市の魅力発信に寄与するとともに、市民が安全で快適に手賀沼の水辺を利用できるよう、手賀沼遊歩道の維持管理を計画的に進めていきます。

観光情報の発信

- 我孫子の魅力やイベントなどに関する情報を用いて、市内外の多くの方に我孫子を知る機会を提供し、繰り返し我孫子を訪れてもらえるよう、様々な方法で効果的な情報発信を行います。

■ 施策指標

指標名	現況値	目標値 (R9)	KPI
観光による交流人口数 (3 イベント: ジャパンボードフェスティバル・ 手賀沼花火大会・産業まつり)	205,000 人	219,000 人	
観光による交流人口数 (4 施設: 鳥の博物館・手賀沼親水広場・ 東我孫子カントリークラブ・我孫子ゴルフ倶楽 部)	557,552 人	592,000 人	

令和 2 年度の数値確定後に再検討

5 - 1 適正な土地利用の推進

良好な自然環境を保全しつつ、継続的にまちが発展できる土地利用を進めます。

■ 施策の展開内容

現在のコンパクトな都市構造を維持しながら、更なるまちの利便性と活力の向上につなげるため、関係法令に基づき、適正な規制・誘導を進めます。

また、市独自の良好な自然環境を保全しつつ、新たな市の発展を担う都市的土地利用を適地において検討します。

■ 現状と課題

- 人口減少に伴い空き地や空き家が増加し、「都市のスポンジ化」によるまちの魅力低下につながる懸念や、職住近接などのライフスタイルの変化が見られます。引き続き、規制と誘導により良好な市街地の形成に努めるとともに、変化に対応し、まちの魅力向上につながる土地利用を誘導することが求められています。
- 事業拡大を希望する市内企業の流出や新たな企業の立地が進んでいない状況です。住宅都市として発展してきた本市の市街地には、産業用地として活用できる土地が少なく、住工混在も課題となっています。

■ 主な取組

都市計画に関する総合調整

- 地区計画制度等を活用し、地区の個性を活かした魅力あるまちづくりを進めます。

審査・指導・認定等業務

- 都市計画法をはじめとする関係法令や開発行為に関する条例等に基づき、開発行為や建築行為の適正な規制や誘導を行い、良好なまちづくりを進めます。
- 産業用地の創出や住工混在の解消に向けた土地利用を図るとともに、千葉北西連絡道路の進捗にあわせて、新たなまちの活性化に向けた土地利用を検討していきます。

指標は設定しない方針

5-2 住環境の保全とまちなみの魅力向上

誰もが暮らしやすい良好な住環境と魅力的なまちなみの保全・形成を進めます。

■ 施策の展開内容

手賀沼をはじめとする豊かな自然と歴史・文化、まちなみが調和した魅力ある景観づくりを進めていきます。

また、誰もが暮らしやすい良好な住環境の保全・形成を推進するため、空家対策や住まいに係る情報提供などの充実を図ります。

■ 現状と課題

- 少子高齢化や人口減少に伴い、住まいに関する様々な課題が生じています。これらの多様な課題に対応するため、住まいに関する相談窓口などの情報提供や支援、空き家等の利活用を推進していく必要があります。
- 魅力的なまちなみや優れた景観は、住民の地域に対する誇りや愛着を醸成するとともに、まちへの来訪者を増やして賑わいをもたらしてくれます。市民・事業者・行政が協力して、魅力的なまちなみづくりや特色ある景観の保全に取り組む必要があります。

■ 主な取組

良好な住環境の形成

- 誰もが暮らしやすい良好な住環境を保全・形成していくため、住まいに係る支援や情報提供などの充実、空き家バンクの活用促進を図ります。

魅力ある景観づくり

- 屋外広告物の設置規制や建築物などの景観誘導により、手賀沼をはじめとする自然景観や歴史・文化的景観と調和したまちなみづくりを推進します。
- 景観づくり市民団体などと協働で景観に関する情報発信や景観ポイントの魅力化に取り組み、市民・事業者の景観に対する関心と理解を深めていきます。

■ 施策指標

指標名	現況値	前期基本計画の目標値	KPI
	R 1	R 9	
住宅・不動産相談の実施件数（件）	28	40	
景観誘導協議合意率（単位：％）	100	100	

※市営住宅の入居率は、募集後の入居率（10/1 時点）に統一したいと考えています。

令和 2 年度の数値確定後に再検討

5 - 3 公共交通の利便性向上

誰もが安全かつ便利に移動できる交通環境を充実します。

■施策の展開内容

誰もが安全・安心・快適に地域で暮らせるよう、鉄道・バス・タクシーなどの利便性向上とバリアフリー化を進めていきます。

■現状と課題

- 市を横断するＪＲ成田線は、市民にとって重要な公共交通機関となっています。今後も、沿線地域の活性化のため、利便性の向上を図る必要があります。
- ＪＲ常磐線は、通勤や通学をする市民の重要な交通手段となっています。快適に通勤・通学ができるように、利便性向上を図る必要があります。
- 公共交通の拠点である駅施設は、多くの市民が利用するため、誰もが安全かつ便利に利用できるように、バリアフリー化などの環境整備を進めていく必要があります。
- 高齢者の増加に伴い、バスやタクシーなどの地域公共交通の重要性はますます高まっています。誰もが快適・円滑に移動できるように、地域公共交通の維持確保を行いつつ充実を図る必要があります。

■主な取組

地域公共交通の利便性向上

- 地域公共交通の維持確保を行いつつ充実を図るため、民間事業者と協力し、市内観光事業などと連携した利用の促進に取り組みます。
- 民間施設の送迎バスなど地域の輸送資源を活用し、地域公共交通を補完していきます。

鉄道・駅施設の利便性向上

- 市民が快適に鉄道を利用し、沿線地域が活性化されるよう、沿線自治体などと連携し、重要な公共交通機関であるＪＲ成田線やＪＲ常磐線の輸送力の強化と利便性の向上を図ります。
- ＪＲ東日本が行う、ホームエレベーターやホームドアなどの駅構内の施設の整備・改修並びに駅の魅力を向上させるための新たな施設の整備について支援していきます。
- 駅利用者の安全性や快適性を保つため、市が整備したエレベーター・エスカレーター及び自由通路の効果的な維持管理を行います。

■施策指標

指標名	現況値	前期基本計画の目標値	KPI
	R 1	R 9	
JR 成田線の増発本数	0 本	2 本	
我孫子駅に停車する特別快速の往復本数	0 本	6 本	
東海道線との相互乗り入れ往復本数	0 本	1 本	
JR 駅構内エレベーターの累計設置数	5 基	9 基	
JR 常磐線駅ホームドアの累計設置数 (我孫子駅 7 線、天王台駅 4 線が対象)	0 基	5 基 (R7 に 5 基 R14 に 11 基完了予定)	
あびバスの利用者数 (ふれあいバス：布佐)	205,443 人 (24,684 人)	220,000 人 (20,000 人)	
送迎バスの登録者数	1,795 人	2,000 人	
路上等放置自転車台数	3,592 台	2,600 台	

令和 2 年度の数値確定後に再検討

5 - 4 安全で快適な道路の整備

誰もが安全で円滑に移動できる道路環境の整備を進めます。

■ 施策の展開内容

さまざまな社会基盤を支える幹線道路等の整備により、誰もが円滑で快適な移動ができる道路ネットワークの充実を図ります。

また、市民生活の安全・安心を支える生活道路や通学路等の適正な維持管理と整備に努めます。

■ 現状と課題

● 道路は、交通機能だけでなく、ライフラインの収容、公共空間、防災空間としての機能を有し、都市全体の経済・社会基盤の形成に欠かせない役割を果たしています。こうした機能を維持するため、常に適正に管理していくとともに、市民が安全で快適に生活できるよう整備していく必要があります。

● 幹線道路は、都市計画道路23路線と、県道千葉竜ヶ崎線、我孫子関宿線、我孫子利根線の3路線を位置づけており、県事業の国道356号我孫子バイパス（都市計画道路根戸新田・布佐下線）の暫定整備が完了しました。接続する都市計画道路下ヶ戸・中里線及び青山・日秀線の早期の整備が求められています。

● 国が整備を予定している千葉北西連絡道路は、国道6号や国道16号の渋滞緩和のほか、市の活性化に寄与することが期待されています。千葉北西連絡道路の整備計画に合わせて幹線道路網の見直しを行う必要があります。

■ 主な取り組み

道路ネットワークの充実

● 市内の交通状況や道路の整備状況、国において検討が進められている千葉北西道路の進捗に合わせて、幹線道路網の見直しを行います。

● JR我孫子駅と手賀沼公園を結ぶ、市のシンボルロードである「公園坂通り」は、交通抑制を図り歩行者にやさしい「歩きたくなるみち」として検討・整備を進めます。

● 未整備な都市計画道路については、将来交通量や費用対効果を踏まえ、計画的な整備を進めます。

● 狭隘道路や交通に課題のある路線については、円滑な道路通行を図るため、道路改良・整備を計画的に進めていきます。

● 通学路の安全確保のため、合同点検で指摘があった路線については、早期の安全確保に努めます。

道路の適正な維持管理

● 障害者や歩行者・自転車など、だれもが安心・安全・快適に移動できるように、歩道整備やバリアフリー改修を進めます。

● 魅力ある道路空間にするため、車両や歩行者の安全を確保しながら街路樹を守り育てると共に、市民による道路環境美化活動の支援（アダプトプログラム）をおこないま

す。

- 道路愛称を定着化し、住んでいる街に愛着をもって頂くと共に、道路を利用する市民や訪問者に必要な道路情報をわかり易く正確に伝導します。
- 道路補修や維持管理を適正におこない、いつでも安心・快適に移動できる道路環境を維持していきます。
- 快適な歩行空間と車両の安全な通行を確保するため、放置自転車対策と自転車駐車対策を総合的に進めていく自転車等駐車対策事業を展開します。
- 道路法に基づき、道路情報の管理や情報提供をおこなうと共に、良好な道路環境を確保するため、民間事業者に適切な指示や監視をおこないます。

■ 施策指標

指標名	現況値	前期基本計画の目標値	KPI
	R 1	R 9	
都市計画道路の整備率	59.2 %	60.6 %	
下新木踏切道の歩道整備率	0%	100%	
土谷津地区の道路整備率	0%	100%	
舗装の個別施設計画に対する進捗率	29%	67%	
健全度Ⅲ判定とされた橋梁の5年経過後の修繕完了率	100%	100%	
自治会が管理するLED街路灯の設置率	97%	100%	
湖北南口（湖北駅南口から四季の道とけやき通りのスクランブル交差点まで）の点字ブロックの整備率	49%	100%	

5-5 利用したくなる公園の整備

誰もが使いやすく、過ごしやすい公園づくりを進めます。

■ 施策の展開内容

市民ニーズを的確にとらえながら、子どもからお年寄りまで、誰もが利用したくなる公園づくりを進めるとともに、安全で安心して利用できるよう維持管理に努めます。

■ 現状と課題

- 公園や緑地は、私たちの生活にうるおいやすらぎを与えてくれる大切な都市空間であるとともに、様々な目的で利用されています。市民ニーズに応じた公園の整備と魅力の向上を図る必要があります。
- 市内には、都市公園が令和2年度末時点で222か所あります。市民にとってより身近で親しみやすい公園となるよう、市民との協働による公園づくりや公園管理を進めることが求められています。
- 市内にある公園の多くが、設置後30年以上経過しています。安全に安心して公園を利用できるよう、老朽化した遊具などの施設を更新する必要があります。

■ 主な取組

地域のニーズにあった公園づくり

- 安全で快適に公園を利用できるよう、利用者のニーズを把握し、目的に応じた公園の整備を進めます。
- 公園の利用状況などを把握し、地域にとってより魅力的で憩いの場となるよう、公園の再整備や適正な配置を計画的に進めます。

公園の維持管理

- 誰もが安全に安心して利用できるよう、定期的に公園施設の点検を実施し、必要に応じて老朽化した遊具など公園施設の更新を行います。
- 誰もが利用したくなる公園とするため、施設の適正な維持管理を行っていきます。
- より身近で親しみやすい公園とするため、地域住民の主体的な公園づくり活動を支援するとともに、公園管理における市民の自主的な活動を進めていきます。

■ 施策指標

指標名	現況値	前期基本計画の目標値	KPI
	R 2	R 9	
公園の数	222	229	★
公園・緑地の面積	150ha	150ha	
市民手づくり公園の活動団体数	10	12	
市民手づくり公園の数	12	14	

5 - 7 安全な水道水の安定供給

水道の基盤を強化し、将来にわたり安全な水道水を供給します。

■ 施策の展開内容

安全で安心な水道水を供給するとともに、老朽化した浄水場設備の更新と管路の耐震化を計画的に進めます。

また、業務の効率化を図り、将来にわたって安定した水道事業運営に努めます。

■ 現状と課題

- 市の人口は緩やかな減少傾向にあるため、将来に向けて水需要が減少すると見込まれます。給水収益の落ち込みを見据えて、引き続き業務効率化や費用の縮減などにより、健全な水道事業経営をしていく必要があります。
- 上水道は、市民生活に欠くことのできない重要なライフラインです。常に施設や設備を適正な状態に維持するため、計画的な修繕や更新、点検をしていく必要があります。

■ 主な取り組み

安全で安心な水道水の供給

- 適切な浄水場の運用に努めるとともに老朽化した施設の更新を計画的に進めます。
- 水道管路の重要度と老朽度を総合的に勘案し、計画的に管路の耐震化を進めます。
- 専用水道等の布設及び管理を適正に行い、衛生的な水が利用されることで、公衆衛生の向上及び生活環境の改善に寄与します。

水道事業の健全経営

- 業務の効率化を図り、将来にわたって安定した水道事業運営に努めます。
- 包括委託によりお客様センターを効率的に運営し、水道料金の徴収・収納の事務や給水装置工事に関する業務監理などを適切に行っていきます。

[ここに入力]

■ 施策指標

指標名	現況値	目標値 (R9)	KPI
経常収支比率	113.1	102.2	
有収率	95.0	95.4	
管路耐震適合化率	42.9	51	

令和2年度の数値確定後に再検討

7-3 スポーツの振興

子どもから大人まで誰もが生涯にわたってスポーツに親しむ環境づくりを進めます。

■施策の展開内容

子どもから大人まで誰もが生涯にわたってスポーツに親しめる環境をつくとともに、競技力向上への支援や指導者の育成、スポーツ施設の適正な維持管理と運営に取り組みます。

■現状と課題

- スポーツは、競技力の向上だけでなく、健康の維持・増進や地域のコミュニティづくりにつながります。身近な地域において気軽にスポーツに親しめる環境を整える必要があります。
- スポーツ・レクリエーション活動の場として市民体育館や学校施設などが多くのスポーツ団体に利用されており飽和状態となっている施設もあります。民間施設や近隣市施設を活用するほか、老朽化した既存施設の整備と修繕を計画的に実施し、活動場所を確保することが課題となっています。

■主な取組

スポーツに親しむ場の提供

- 健康の維持・増進や地域のコミュニケーションづくりを図るため、スポーツ推進委員などと連携し、誰もが気軽に参加できる総合型地域スポーツクラブなどの団体を支援します。
- 生涯スポーツを支える人材を確保するため、スポーツ指導者の養成に取り組みます。
- 気軽にスポーツを楽しめるよう、スポーツ関係団体や指定管理者との連携による、市民体育大会などの様々なスポーツイベントを開催して、参加機会の充実を図ります。
- スポーツ人口拡大のため、民間のスポーツクラブや大学などの教育機関、近隣市と連携し、使用できる施設やスポーツを指導する人材の確保などに取り組みます。
- 安全で快適にスポーツができる環境を整備するため、市民体育館など市のスポーツ施設の適正な維持管理を行うとともに、新たな施設の整備について、民間活力の導入も含めて検討していきます。

■施策指標

指標名	現況値	前期基本計画の目標値	KPI
	R 1	R 9	
体育施設の延べ利用者数	237,985 人	294,000 人	
スポーツ指導者養成講座 参加者数	6 人	30 人	
スポーツ大会の参加者数（市 民体育大会・チェレンジスポ ーツフェスタなど）	5,578 人	9,500 人	

令和 2 年度の数値確定後に再検討

8-1 男女共同参画の推進

性別にとらわれず、あらゆる場面で一人ひとりの個性や能力を十分に発揮できる環境づくりを進めます。

■施策の展開内容

性別にとらわれず、さまざまな場面で一人ひとりの個性や能力を十分に発揮し、活躍できる環境づくりに取り組みます。

また、男女平等に関する国際的な評価や潮流、国の新たな法律の整備を踏まえ、男女共同参画社会の実現に向けて取り組みます。

■現状と課題

● 仕事の分野での女性活躍や意思決定過程への女性参画は徐々に進んできましたが、性別役割分担意識や、「男だから、女だから」といった無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）は根強く残っています。性別にとらわれず、誰もがあらゆる分野で活躍できる社会とするためには、より幅広い観点からの意識の醸成が求められています。

■主な取組

男女共同参画の推進

- 性別役割分担意識やアンコンシャス・バイアスを払拭するための情報発信を強化します。
- 性別に関わらず、家事や育児、地域活動に主体的に参画できるよう、社会全体の意識の醸成を図ります。
- 性別に関わらず、その被害が潜在化しやすいDVや性被害をはじめ、あらゆる暴力やハラスメントのない社会を目指し、その啓発に取り組みます。
- DV被害者が安心して自立した生活を送れるよう、相談及び支援体制を充実します。

■施策指標

指標名	現況値（例 R1 年度）	目標値
審議会等の女性委員比率	35.2%	40%
市女性管理職比率（課長職以上）	15.8%	20%
市男性職員の育児休業・部分休業取得率	0%	10%

※目標値は令和10年度まで（第3次プラン男女共同参画プラン）

8 - 2 人権尊重社会の推進

すべての人々の基本的な人権が尊重され、かけがえのない人生をその人らしく過ごせる環境づくりを進めます。

■ 施策の展開内容

すべての人が人権について理解を深め、お互いの違いを認め合い、それぞれの人権を尊重しながら、その個性と能力を十分に発揮し、その人らしくいきいきと暮らすことができる地域づくりを進めます。

■ 現状と課題

- いじめや体罰、児童虐待、インターネット上の誹謗中傷、プライバシーの侵害、特定の民族や国籍の人々を排除するような差別的言動、障害者などマイノリティに対する偏見はいまだに存在しています。人権が守られるよう、すべての人が人権についての理解を深める取組を進める必要があります。
- 自殺に至る原因や動機は様々で、差別、いじめ、DV、誹謗中傷、生活困窮、過労など様々な社会的要因が複合して起こることが知られています。それぞれの要因に応じて、家庭、地域、学校、職場、専門機関等と連携し、対応する必要があります。

■ 主な取組

人権尊重社会の推進

- すべての人がお互いの違いを認め合い、それぞれの人権を尊重しながら、その個性や能力を十分に発揮できるよう、人権についての理解を深めるための啓発活動を推進します。
- 非行の防止と罪を犯した人たちの更生について、地域全体で理解を深め、犯罪や非行のない明るい社会を築くため、啓発運動に取り組みます。
- 自殺を未然に防ぐための周知啓発を図るとともに、自分の周りにはいる自殺を考えている人の存在に気づき、声をかけ、必要に応じて適切な相談機関などにつないでいけるよう、地域の支援者としてゲートキーパーを養成していきます。

■ 施策指標

指標名	現況値	前期基本計画の目標値	K P I
	R 1	R 9	
人権相談対応率	100	100	★
後見制度利用件数	222	300	
自殺率（人口 10 万人あたり）	8.32		

※「自殺率」については我孫子市自殺対策計画の指標に基づく

8-3 平和社会の推進

世界の恒久平和と核兵器の廃絶を願い、戦争の悲惨さと平和の尊さを後世に伝えていきます。

■施策の展開内容

「我孫子市平和都市宣言」の趣旨を踏まえ、世界の恒久平和と核兵器の廃絶を願い、戦争の悲惨さと平和の尊さを後世に伝えるため、市民とともに平和事業に取り組みます。

■現状と課題

- 戦後75年以上が経過し、戦争を体験した方、戦争の体験を語る方が少なくなっています。戦争の記憶が薄れていく中、次の世代へ戦争の悲惨さと平和の尊さを継承し、さらに後世に伝えていく取組を進める必要があります。

■主な取組

平和社会の推進

- 「我孫子市平和都市宣言」の趣旨を踏まえ、世界の恒久平和と核兵器の廃絶を願い、戦争の悲惨さと平和の尊さを後世に伝えるため、被爆地である広島・長崎へ中学生を派遣します。
- 派遣中学生OB・OGによるリレー講座を継続するほか、若い世代が参加しやすく、平和について考えるきっかけとなるよう工夫しながら、市民とともに平和事業に取り組みます。
- 原爆被爆国として記憶を風化させることなく後世に伝えるため、平和祈念式典を開催します。
- 戦没者に対し追悼の意をささげるとともに、二度と戦争を繰り返すことのないよう恒久平和を市民と祈念するため、遺族会と協力し戦没者追悼式を継続して実施していきます。

■施策指標

指標名	現況値	目標値 (R9)	KPI
小学校でのリレー講座の実施率 (実施校数/全小学校数)	100%	100%	
リレー講座開始からの派遣中学生OB・OGの参加述べ人数	71人	150人	
平和事業への参加者数 (平和祈念式典組合せ事業・平和の集い)	370人	450人	

令和2年度の数値確定後に再検討

[ここに入力]

8-4 国際交流・多文化共生の推進

国際理解を深めるとともに、国籍等の異なる人々が、お互いの文化的違いを認め合い、地域社会の一員として生きていくための多文化共生を進めていきます。

■施策の展開内容

関係団体等と連携して市民の国際意識の向上を図るとともに、在住外国人と市民との国際交流を進めます。

また、国籍等の異なる人々が、お互いの文化的違いを認め合い、地域社会の一員として生きていくための多文化共生を進めていきます。

■現状と課題

- 我孫子市には、令和3年1月現在、1,934人の外国人が居住しており、人口の約1.4%を占めています。日本人と外国人の市民が異なる文化や慣習を互いに理解し、安心して暮らせるまちづくりを進める必要があります。
- グローバル社会の進展や情報通信技術の発達などにより、日常生活の中で外国人と交流する機会が増えています。市民が外国人とのコミュニケーション能力を身につけ、国際理解を深めるための取組が求められています。

■主な取組

国際交流・多文化共生の推進

- 関係団体等と連携して市民の国際意識の向上を図るとともに、在住外国人と市民との国際交流を進めます。
- 国籍等の異なる人々が、お互いの文化的違いを認め合い、地域社会の一員として生きていくための多文化共生を進めていきます。

■施策指標

指標名	現況値	目標値 (R9)	KPI
市ウェブサイトの国際化情報への年間アクセス数	522 件	950 件	
「外国人のための日本語教室」実施回数	62 回	68 回	
国際交流まつりの来場者数	680 人	760 人	
ALT (外国語指導助手) の授業に満足している児童生徒の割合【再掲】	91%	95%	

令和2年度の数値確定後に再検討